

- 1 台所計画で主導的役割を果たしてきた戦後の公的集合住宅の台所設備の実態をたどることによって今日の台所のあり方を明らかにし、今後の都市住宅の台所像の予測資料とする。
- 2 住宅都市整備公団及び大阪府住宅供給公社の協力を得て設立時から年度別に代表的と思われる住宅設計図を台所に着目して抽出した。資料総数126件、但し400件は58～59年の民間マンションの資料であり、近年の公的住宅の台所の水準を明らかにするための比較資料とした。
- 3 調査は台所を空間と設備と仕上の3側面で行ったが、本論では台所設備について述べる。具体的には、厨房機械など39項目について当時の設計図をもとにして調べた。
- 4 30年代公団は様々な面で先駆的役割を果たしていたが40年代の高度成長で質的要求や多様化に対応できず、民間に追いつく形になった。50年代民間マンションでは台所設備がうたい文句になっているのに対し、公的住宅では冷蔵庫置場や収納量の絶対不足の問題が未解決のまま、多様化への対応にとまどっており、エネルギーの電化を前に、管理上の煩雑さをさげるため依然として一時代前のコンロ台を用いている等時代の要求に対応しきれていない。

